

令和3年4月8日

藤井寺中学校 令和3年度 第1学期 始業式

校長講話

「困難の途中にこそ きっとチャンスが、、 掴みましょう！」

全校生徒の皆さん、おはようございます。2021年、令和3年度 藤井寺中学校の幕開けです。新しい学年を迎えた3年生の皆さん、そして2年生の皆さん、「進級おめでとう。」そして、先日入学式を終えた、新1年生の皆さん、「ようこそ藤井寺中学校へ。入学おめでとう。」

本日、新年度のスタートの日に、こうして全校生徒の皆さんと、またすべての先生方と、体育館で始業式を迎えることができましたこと、**本当にうれしく感じています。**

と言いますのは、皆さんも一緒に振り返ってほしいのですが、昨年2月も終わろうとしていた時期、私たちは、新型コロナウイルス感染症の脅威を、現実のこととして捉えなければならなくなりました。3月に入り、突然、学校は休業措置となり、これまで1年間共に学び、過ごしてきたクラスや学年の仲間との学校生活が途絶えました。そんな中、皆さんは、一つ上の学年に進級しました。4月になれば学校に行ける！と、皆が祈る中、無情にも、4月・5月と2カ月間、学校休業は続くこととなりました。学年は進んだものの、また中学校に入学したものの、新しいクラスメートは誰なのか、担任の先生は誰なのか、明らかにならないまま、ステイホームの毎日を強いられ、不安な2カ月を過ごした1年前のことを思い出してみてください。

今日現在、コロナ感染の状況は、決して楽観を許しません。いえ、また感染拡大の大きな波が押し寄せています。しかし、**昨年の今頃とは明らかに違います。学校は、閉じていません。本日、こうして当初の日程どおりに始業の日を迎えることができたことを大切にしていきましょう。そう、だからこそ、私たちは、改めて気を引き締め十分な感染症対策を講じていくのです。先生方と共に、私たちの学校生活を守るために！**

さて、次に、第1学期の記念すべき初日に、私は、皆さんに、昨年の始業式で届けたのと同じメッセージを贈ります。

皆さん、アインシュタインという人をご存じですか。アインシュタイン博士、一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。アインシュタインは、現代物理学の父とも呼ばれ、今から約100年前、42歳の若さでノーベル物理学賞を受賞した人です。

「相対性理論」を発表した、このことは特に有名ですね。

アインシュタインは、数多くの名言・言葉を世に残していますが、その一つに、**In the middle of difficulty lies opportunity. (いかなる困難の途中にこそ、チャンスが横たわっている)** という名言があります。私は、コロナ禍の社会状況のなかだからこ

そ、この言葉の内容（心）を大切にしたいと思っています。出会ったばかりの1年生の皆さんと、そして再度2・3年生の皆さんとも共有したいのです。

今の自分の辛い状況に、いつまでも不満を言い、文句を言い続け、笑顔になれない、そんなあなたであってはいけません。早期に気持ちを入れ替えて、次の目標に向かって頑張りましょう。自分を奮い立たせてほしいのです。

実は、アインシュタインの言葉を、「まさしくそのとおりだな」と、私に再認識させてくれた人々がいます。それは、他ならぬ「昨年度の、令和2年度の藤中生の皆さん」なのです。制限の中、笑顔いっぱい、力いっぱいに取り組んだ体育大会の皆さんの姿、さらには、本来なら音楽合唱コンクールを開催したかったのだけれど、コロナの状況を鑑み、皆さんの創意と工夫を凝らして実施したプラスチックコップを机に打ちつけて音を出し、拍手と組み合わせてリズムを作るカップスによる学年演奏会。心をしっかり合わせて披露した皆さんのパフォーマンス！

私は、あなたたちから、「負けないこと 投げ出さないこと 逃げ出さないこと 信じ抜くこと」の大切さをいただいたのです。

さあ、令和3年度のオープニングです。

In the middle of difficulty, lies opportunity.

（困難の途中にこそ、チャンスが必ず、、、！）

みなさんの無限の可能性を信じます。

以上、第1学期の始業式に当たって、私の言葉とします。

校長 西留 俊春